

編集部それぞれの

パワースポット

行けば元気がもたらえるパワースポット
編集部めいめいの
スポット一挙公開。



古本屋 木津川計

一度、二度、読まれた本に価値が付き新たな読者が生まれる。そんな古書店は木津川発行人のパワースポット。とくに代

表の著書が正価より高く売られておれば「よし!」何日か経って値段が下がれば「これはいかに」さらに一〇〇円均一になっておれば「パワースポットどころでは...」なのである。代表はひそかに古本四季報を考えている。

西真 藤原 竹屋道具の千日前

「上方芸能」のカラ金庫番が長い森西代表、若い頃「いつ廃刊、いつ解散」の日々があり、先輩も居酒屋稼業、私には何ができるやら。道具屋筋を行ったり来たり「いか焼き道具は1500円、たこ焼きなら3000円、暖簾は切り絵の加藤画伯に無理いって」そうこうするうち道具屋筋のパワーをあげて「そや、原稿の催促が先だった」と、我に返る日であった。



四天王寺の亀の池 フロッグ西嶋

「助けた亀に連れられて」と浦島太郎の歌があるが、四天王寺「亀の池」には助けられた亀がいつばいいる。だから亀の池の水深い深いところに竜宮城があるにちがいない。フロッグ西嶋はそう思っている。亀の池のパワーをためにためて「えいやっ!」と池に飛び込み竜宮城をめざすのだ。定年すぎの乙姫様が迎えてくれる。



猛獣のオリ 加藤としみ

ライオンの咆哮、まじかに聞いたことがあるだろうか。檻中に閉じ込められてるとはいえ、まわりの空気をふるわせ園内に響き渡る。遠くの柵の草食動物たちもその声に恐れ身を縮める。檻の前の加藤としみもまた金縛りにあつたように動くことができない。恐怖と快感が入り混じったライオンパワーが身も心も一新させるのだ。



学食のランチョ 種野奈都子

深山溪谷、神社仏閣にはほとんどパワーを感じません。パワーは口から、おなかから、好きなものを好きなだけ、周りの迷惑を考えず、ガチャクチャ、わーわー、いくら幼稚と言われよう、これがパワーの源泉なんです。しかしこんな迷惑を許すのは学校の食堂以外にありません。ヒマを見つけて学食荒らしの旅に出るのだ。





居酒屋の暖簾 山崎正樹

居酒屋の暖簾、見ればくぐらずにはいられない。くぐると山崎パワーが増す。天下国家を語ろうじゃないか。青年よ未来をひらけ。君の才能をのばせ！ボクの財布は限界だ。こんなパワーが連日連夜、もう衰えてもいいころなのに……。



中国四宮陽一

ハイ、中国4千年、12億人のパワーを浴びてまいりました。帰りの飛行機で少し落とし、これからのマージャン用に少し温存させる予定ですが、残りのパワーは編集部のみなさんにおすそ分け、存分に使ってください。

ニーハオ、
シェーシェ、
ワンタンメン。

イラスト・ルポ
No.117
高宮信一

グワコ^{oo}の看板 広瀬依子

「世は乱れとる！」特に戎橋界限がけしからん。さいわいにしてタイガースのていたらくで川にとびこむ姿はないが、ズボンを尻までさげた男。

路上でムシヤムシヤ食べる女。イチヤつく若者。こんな戎橋に、まるで世の退廃をさとすがごとき清潔なランナー青年のゴール姿。「グワコの看板」が戎橋にあるかぎり大阪もまだ望みはある。編集長は看板を見上げパワーをいただくのである。



道修町の 神農さん 井澤慎治

井澤さんは元気人。眼光鋭く、毛は黒く、肥満にも縁がない。なぜか。道修町は菓の神様、神農さんのパワーを貰うから。神農さんには道修町の名だたる菓屋が「どうかわが社の菓が良く効きますように」とお参りする。頭の先の毛はえ葉から、足の先の水虫退治まで、神農さんにはありとあらゆる特効薬が詰まっている。それをパワーに井澤さん、向かうところ病氣も敵も退散し、まわりはみんな煙たがる。



高宮信一の
高領の
しごあし
ゆきか

銭湯 中島平八郎

ズバリ銭湯がパワースポット。それもひと仕事終えての湯ではご利益がうすい。暖簾があがる一番風呂のパワーが格別という。どこそこの銭湯は何時に暖簾というのは完全チエック。明るいうちからカラーンと桶の音を響かせ、ザブーンとお湯をあふれさせながら首までつかののだ。のぼせる手前がパワーの効きどころ。